

令和5年度 学校評価書 (計画段階 ・ 実施段階)

福岡県立朝倉東高等学校

自己評価						学校関係者評価				
学校運営計画(4月)					評価(総合)		自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である			
学校運営方針	知・徳・体の調和的発達を図り、明朗で礼儀正しく自らを律し、国家・社会に貢献できる有為な人材を育成する				B					
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標					項目ごとの評価	学校関係者評価委員からの意見		
<p>・進路サポーター制度の導入により、生徒が進路について考え視野を広げる機会が多くなり一定の成果が得られた。本年度は運用面での課題を解決するとともに教員の進路指導力の向上を目指す。</p> <p>・ICT機器を活用し、生徒が効率よく学ぶ環境作りを推進した。探究活動推進のため教科横断型の授業を工夫するよう、教科・学年・分掌の組織的な連携が必要である。</p> <p>・学校行事の成功や株式会社等の各学科の取組により、生徒の自尊感情や達成感が高まった。今年度は、生徒主体の運営を推進するため、さらに組織的に取り組む。また、生徒の頑張りやSNS等を駆使しながら校外外に発信し、本校への興味関心を高める広報活動が必要である。</p>	1 時代が求める学力向上への取組	年度重点目標			B	<p>1 ・学習が進むにつれて、場面に応じてICT機器を適切に選択し、活用している。また、単に調査して情報収集だけでなく、様々な角度から物事を捉え、考察・分析するなど探究的な学びに取り組み、自分の考えを表現することができるようになってきている。授業で身につけた知識・技能を日常生活を結びつけ、豊かな人間性を育みたい。</p> <p>・単元テストの実施にあたっては、生徒は部活との両立を目指しながら計画的に学習に取り組んでいる。自ら学習に目標を持ち、学習方法を調整しながら取り組むなどの効果も見られた。生徒が主体的に学習を継続する体制作りを推進する。</p> <p>・授業力向上に向け、ICT機器に限らず様々な授業方法を検討している。魅力ある授業の実施するためにも、教科研修の充実を図りたい。</p>				
		具体的目標					具体的方策		評価(3月)	次年度の主な課題
		ICTを活用した授業の展開、並びに探究活動を取り入れた授業の展開の推進を図る。	学習を他教科と関連付け、教科横断的な幅広い知識・技能の習得を図る。				B	B	<p>2 ・進路サポーターの面談など進路関係行事の生徒の満足度は高い。一方で、教員への負担が大きい。また、各行事を通じて自らのキャリアに対する考えを深めたり、行動に結びつけたりする取組を組織的、計画的に実施していく必要がある。</p> <p>・次年度から新教育課程の入試が開始される。そのため、教員全体の進路指導力、教科指導力の充実が必要となる。入試情報の共有、教員全体での模試分析会など工夫したい。模試の実施時期や回数を見直し、負担軽減を図る。</p> <p>・株式会社の企画・運営に1・2年生も参加し、学年間の連携ができた。地元企業との連携を密にし、定期的な部長会等を実施したことで、生徒の主体的な活動に繋がった。今後は、株式会社との部署編成等を見直し、改善を行い、継続した取組としたい。</p> <p>・ToneProjectは、例年と比べ幅広く活動を実施し、長期的な取組にも着手できた。今後は、普通科全体の取組とするか、有志のみの取組とするか、検討と協議が必要である。</p>	
			場面に応じて適切・効果的にICT機器を活用し、思考力・表現力の向上を図る。				B			
		単元テストの実施により、面(まとめ)としての学びの実現を図る。	情報を収集し、活用する目的や分析方法、まとめや発表について手法を共有し、魅力的な授業を実施する。				A	A		<p>3 ・体育祭を平日開催にしたことで、全校生徒が参加できた。生徒会執行部が中心となって運営することで、全校生徒の協力する雰囲気が醸成され、学校全体で体育祭を成功に導くことができた。文化祭も全校生徒と地域、保護者が協力して成功させることができた。今後の課題は、早急の準備と振り返り、引継ぎの機会を設け、次年度へ繋ぐ体制を整える。</p> <p>・学校生活アンケートやいじめアンケート等から生徒の変化を把握し、組織的に対応することができた。生徒情報を共有できる場を設け、すぐに組織的に対応できる体制を整えていきたい。</p>
			学習のタイミングを適切に捉えて単元テストを実施し、計画的に学習に取り組む理解を深める体制を整える。				A			
	2 キャリア教育の多角的な推進	単元テストの実施により、面(まとめ)としての学びの実現を図る。	評価表を活用し、生徒が学習の成果を把握しフィードバックを繰り返す中で学びを深めさせる。	A	A					
			成功・失敗体験から学び、成長する過程に着目し、学校行事や奉仕活動、作品の応募等への積極的な参加を促す。	B						
		全職員がタブレット等を用いた効果的な授業が展開できるよう、授業力向上のための研修会を定期的に実施する。	効果的な授業を展開するため、職員研修をととして他教科の授業や探究活動を共有する。	B	B					
			信頼性を確保したうえで業務の効率化を図り、生徒一人ひとりに向き合う時間を確保する。	B						
		進路サポーター制度を活用し、生徒が主体的に自らのキャリアを考えるような取組を推進する。	進路サポーターとの面談を通して、生徒が自己理解し、進路について主体的に考えることができるように工夫・改善しながら実施する。	B	B					
			進路サポーターと担任とが連携して生徒の進路指導・進路実現への支援ができるように、情報共有の体制を作る。	C						
模試を活用し自らの学力を客観的に分析する力を養わせ、教員については教科の授業改善や生徒の進路指導に活用できるようにする。	B									
業界や大学等の最新の情報や入試制度に関する情報について、情報の収集先や入手方法を提示し、有用な情報について適宜周知する。	B									
業界や大学等の今後の状況についての情報を適宜周知する。	担任会、志望校検討会などを通して生徒の進路希望を共有し、教科指導・進路指導に生かす。	B	B							
	企業訪問、入試説明会の情報を共有し、進路指導に生かす体制を整える。	B								
中学生等に本校のキャリア教育の取組状況を発信し、本校に対しての理解を促進する。	中学生、保護者及び中学校教員が望む情報は何かを分析し、キャリア教育関係の広報に活かす。	B	B							
	本校のキャリア教育の取組状況を適宜HP等で発信する。	B								
各学科の特色化を図るため、「株式会社Easter Inc.」・「Tone Project」の活動について検討を推進する。	進路実現に向けた理解・協力を得るため、PTAIに対する進路ガイダンスや学校見学を行う。	A	A							
	地元企業との連携を図り、商品開発やアプリ開発などにおける取組を充実させ、地域社会が有する課題や魅力に着目した探究的な学びの実現を図る。	A								
3 成年(成人)へ向けての取組	主体的に活動し、成功と失敗を繰り返しながら、自らの行動を検証できる生徒を育成する。	学校行事等において、生徒が主体的に参画するシステム作りを行う。	B	B						
		行事後に、生徒・職員に対するアンケート(振り返り)を実施し、分析結果から改善を図る。	B							
		生徒が主体的に活動できる場を提供し、適切な支援を行い、振り返りの機会を必ず設ける。	C							
	自らの心身の健康と併せて他者にも配慮できる生徒を育成する。	生徒指導に関する必要な情報を職員で共有し、生徒の支援に努める。	B							
		学校生活アンケート、いじめアンケート等の集約と確認、結果の共有を行い、生徒の変化を組織的に把握し、早期に対応する。	B							
		教育相談委員会を毎月開催し、支援が必要な生徒を共有し、組織的に対応する。	B							
自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策					評価項目以外のものに関する意見					
<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>										